

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>散歩や買物などのために地域へ出て行き、近所の人へ挨拶したり、登下校の子供に声を掛けたりと言うことを大切に考えている。ニュータウンの都市機能を活用し、地域で性格することを支えていくことを運営理念に掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>研修会や学習会、また各ユニットのミーティングで、理念について学ぶ機会を持っている。全ての職員が運営理念を暗唱することが出来る。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>買物や散歩で積極的に地域に出て行くことにより、地域に浸透し、また、道路沿いに掲示板を作りグループホームの取組みについて表示するなど、地域の方々にも理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣マンションの催し物に参加したり、近所の方がボランティアに来てくれることもある。散歩や花壇の手入れ時の挨拶を心掛けている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>夏祭りなどの行事には近隣住民にも開放し参加交流をしている。地域の催し物へも利用者と参加している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>掲示板を作成し、全職員が持ち回りで、季節の話題や生活情報、医療情報、法改正の要点等を掲載することで、地域の高齢者の生活に役立ててもらえるよう取り組んでいる。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価委員を設け、話し合いを行っている。自己評価、第三者評価を日々のサービスを振り返る機会と捕らえている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、年間計画に基づいて2ヶ月に一回開催し、そこでの意見をサービスに反映できるよう努めている。</p>	
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>3ヶ月に1回、神戸市西区グループホーム連絡会に出席し、情報交換している。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業を必要とする利用者は現在はいないが、学習会に参加したり、パンフレットを回覧し意識を高めている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者介護にとって、虐待は絶対あってはならないこととして、全体朝礼、研修会で常に啓発を図っている。市発行のパンフレットや法の要点をまとめた資料を回覧している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族が理解しやすいよう、契約書を読み上げながら説明を行うようにしている。質問しやすい問い掛けに努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に外部の苦情受け付け窓口の電話番号を紹介している。意見箱を設置している。日々の利用者との会話の中で、意見、不満、苦情を吸い上げるよう心がけており、管理者へは業務日誌等を通じて報告する体制をとっている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には、家族に近況報告をしている。また、個々の預り金については月1回領収書や明細を送付している。職員の異動については報告はしていない。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情相談機関を記載している。また家族が声に出しやすい雰囲気や家族の意見を聞くように心がけている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回各部署の代表者を集めて会議を開き、職員からの意見の吸い上げを行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者が体調を崩し、受診の必要性が生じた時など残業したり、早めに出勤したりと柔軟に対応している。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	不必要な人事異動は行わず、馴染の関係を重視している。		
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修や各講習会へ参加する機会を作っている。また福祉関係の資格取得を目指す職員には勤務調整をする等、応援態勢をとっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば、市内グループホームの見学をさせて貰い、他のグループホームからの研修生、実習生も積極的に受入れている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務の前や後の顔の表情や態度を見ることが出来るよう、タイムカードを施設長の側に置いている。気安く声を掛けられる雰囲気を作っている。年に数回、親睦会を行い職員の交流を深めストレスを軽減するよう取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの頑張りや困っていることなどを見極めるようにし、自信を持って生き生きと働けるように心を配っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの申込であっても、本人への面接は必ず行い話をよく聞いている。インテーク面接をした職員は、入居前面接情報紙に記入し、入居前に得た情報を職員全員に浸透させている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前面接情報紙には家族の思いも記入し、入居前に回覧している。入居前面接は、一回で終わらず、家族が納得するまで回数を重ねている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホーム以外の介護保険サービスや、高齢者施策の利用が必要な場合は、適切なサービスを紹介している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学時に、他の入居者と一緒にお茶を飲んだり、併設サービス利用者の場合は、必要に応じて職員が顔を見せ、話をしたりと、入居前より馴染みの関係を築くようにしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家事を一緒に行なったり、会話の中から利用者の過去の経験を引出し、先人の生活の知恵を学ぶことが多くある。利用者と日常をともに過ごしながら共に育ちあう関係を築けるように努力している。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>利用者を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている</p>	<p>外出行事には、家族の参加協力をお願いし、利用者、家族、職員の共有の思い出作りに努めている。また、必要な場合には、家族に泊まりに来て貰ったり、面会を多くして貰う等依頼することもある。特に終末期ケアには、家族の役割を明確にし、協力体制を強めている。</p>		
29	<p>利用者と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族の、利用者に対する思いを聴くようにし、家族の思いも受け止めるようようにしている。面会時は居室で、ゆっくりくつろいでもらえるよう案内し、家族との時間を大事にして貰う。食事時間であれば、居室に配膳し、家族での食事を楽しんで貰うこともある。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の友人、知人が気兼ねなく来れるよう歓迎している。利用者からの要望で馴染みのお寺や神社、商店街に行くことも計画している。空き家になっている自分の家や、行き慣れている美容院に行く機会も作っている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>気の合う利用者同士を買物に誘ったり、食堂での座席を考慮したり、入居者同士で良い関係が築ける様に配慮している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>継続的な関わりを必要とする利用者は特にはないが、入院し退所となった利用者の面会に行ったりすることがある。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>居室には、思い出の品や家具を持ち込み、本人の意向に沿ったレイアウトとしている。夜更かししてのTV観賞等、支障が無い程度に本人の希望をきいている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事あるごとに、過去の生活歴に意図的に触れることを行っており、生活歴記録用紙を活用している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>朝のティータイム時にスタッフも一緒にテーブルを囲み、個々の意見、希望をきき、一日の過ごし方を決める様にしている。</p>	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族からの情報を得、介護計画に生かしている。作成前には、家族を交えて話合を持つこともある。インフォーマルサービスとして家族やボランティアの力をケアプランに位置づけることもある。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>前回の第三者評価での指摘を受け、モニタリング用紙を作成した。月に一回モニタリングを擦るように努めている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>カードックス(記録以外の細かい情報)を利用し、全スタッフが情報を共有できるようにしている。日々の様子も個別に記録している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>身のまわり品や嗜好品などで、こだわりの物がある時はそれを探しに一緒に買物に行ったり、空き家になっている家が気になる利用者には、一緒に見に行ったりしている。訪問介護が必要な場合は、利用手配を行うなど個々に必要な支援が適切に受けられるように対応している。</p>		
4.より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>定期的に地域からボランティア(音楽・傾聴・セラピードック)が来ている。近くの高校や大学からのボランティアの受入れをしている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>利用者の状態や希望により、訪問看護を利用したことがある。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>包括支援センターの職員には、運営推進会議に出席を依頼し、連携を図っている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>経営者がかかりつけ医なので親身になってくれる。専門医受診の必要性の判断から、予約、診療情報の提供まで行なってくれる。どこを受診するかなどは家族の希望を優先している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要な方には、総合病院の神経内科、認知症外来等受診を勧めている。必要に応じ、医師やPSWと連携を取ったり、同行することもある。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>経営者は医師、施設長及び管理者は看護師で、24時間連絡が取れる体制を確保している。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>スムーズな退院に向け、入院先のケースワーカーや医師、看護師と情報交換をしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者の状態の変化が見られた場合は、起こりうる状況を想定し必要に応じて、早めに話合いの機会を持っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事業所として出来ない事(介護職の吸引等)を家族に伝え、緊急時の対応を家族を含めカンファレンスをしている。重度化した場合や、終末期には、独自の指針に従って支援している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	サマリーのやり取りや電話での情報交換等を行い、利用者がスムーズに移れる様努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	排泄の失敗や、ちぐはぐな会話でも、誇りを損なうような対応はしていない。まわりの人の目を常に意識し、必要な場合は、個室で対応する等、心を配っている。 パソコンやFD、USB等の管理も適切に行っている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	スタッフが何事も決定してしまわず、利用者とは相談することを基本にしている。声のトーンを変えたり、方言で話し掛けたり筆談したりと、利用者に合わせて対応している。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	散歩のコース、おやつの内容等、その日の過ごし方を、朝のティータイム時に予定を立てている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	訪問理容は、二ヶ所から来て貰っている。サービスで薄化粧や眉カットも行って貰っている。また、以前から使っていた馴染み深い化粧品を購入し、使っている利用者もいる。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>通常の食事以外にも、誕生日には好みの物をつけたり、外食に行ったりと、食べる楽しみを重視している。また調理や後片付けを楽しみながら出来るよう、一人一人の力ややる気を考慮しながら誘導している。</p>	
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一緒に買物に行き、選んで貰っている。買物に行けない利用者には、職員が希望をきき、購入し提供している。</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>職員が排泄パターンを把握し、極力トイレで排泄して貰えるようにしている。また、一人ひとりに一番合ったパット、トレーニングパンツ等を探すことに努めている。</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>介助の不要な方は、毎日入浴している。要介助の方は、2～3日に一回の入浴となり、時間も20時迄に入ってもらっているようにしている。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中には、出来るだけ散歩や運動で体を動かし、安眠出来る様に支援する。体力のない利用者には、昼寝を取り入れている。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>台所仕事や草引き等、得意分野で力を発揮出来るように支援している。遠足や外食等も利用者の希望を聞きながら行っており、良い気晴らしになっている。</p>	


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	馴染みの財布を持ち、自ら財布よりお金を出して買物する利用者もいる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域に暮らす人たちとの自然な交流や、季節や天気を肌で感じたり、入居者自身が品定めをして買物をするということを大切に考えており、積極的に戸外に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が行きたい所へ職員が付き添って行く場合もある。家族に連絡し、家族が連れて行く場合もある。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵葉書や年賀状の作成を一緒に行っている。電話を希望する場合には、取次ぎなどの手助けをしている。公衆電話も設置しており、自由に利用出来る。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に制限は設けていない。気軽に談話できるように、居室内だけでなく、食堂内にも場所を確保したりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束とは何か」を正しく学べるようパンフレットを作成し、回覧している。センサーマットを導入するなどの工夫をし、拘束せずに転倒予防するように考えている。禁止されている行為を、止むを得ず行う場合は、家族から同意書を取り、記録やモニタリングを行うなど、定められた手続きを踏んでいる。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関からふらりと出て行き、徘徊する利用者もいるため、職員が手薄になる時は、安全確保のため施錠せざるを得ない。しかし漫然と施錠したままにせず、不必要な時は鍵をかけないように心がけている。		
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自由な行動を制限することのないように、さりげなく見守るようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や洗剤の管理は、危険の無いように行っている。異食のある人、何でも服のポケットに入れてしまう人等、個々の状態に応じ、テーブルの上に置く物などに注意している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時マニュアルがあり、スタッフ全員がその種類と内容を把握している。年に2回、避難訓練を行っている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応のマニュアルを備えている。心肺蘇生法の訓練を過去2回行った。		今年も、10月に消防局の方を講師に招き、心肺蘇生法の講習会を行う予定。今後必要に応じて行っていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っている。近くに住んでいる職員で、夜間緊急召集連絡網を作成している。地域推進会議でも、近隣に住んでいる構成員の方に協力を依頼した。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりうるリスクについて家族に説明し、リスク回避を優先するか、抑圧や制限のない生活を優先するか、といった話し合いをすることもある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的なバイタルチェックを行っている。また、異変時には迅速に看護師に連絡し、早めの対応を行っている。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より薬と一緒に届く薬情を、ユニット内の全職員が目を通すようにしている。服薬マニュアルに基づいて与薬を行い、服薬後の観察を行っている。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要な人には、排便チェックを行っている。便秘気味の入居者には、食物繊維が多い食品摂取や水分摂取、適度な運動を促している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個人の口腔内状況やADLに応じた口腔ケアを行っている。迷った時は、往診の歯科医に相談することもある。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食とも摂取量チェックを行っている。摂取量の極端な減少が認められる場合は、食事水分の摂取状況を詳細に記録し、主治医や家族と連絡を取り合って総合栄養流動食を用いたりすることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種感染症のマニュアルがある。流行時期に合わせて各職員に啓発を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤帯に、水周り物品の消毒や冷蔵庫内の清掃等を行っている。賞味期限等注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の周囲に花を絶やさず、美観の保持に心がけている。また、掲示板を作り、施設内行事や旬の話題の提供などを行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室はブラインドやカーテンで日光の調節。居間や食堂には常に季節の行事を感じさせる飾り付けをしている。玄関には花の寄せ植えをおいている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーターホールや廊下の隅には椅子を置いて外を眺めたり、独りになれる場所を確保している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に仏壇や位牌、使い慣れた家具、調度を持ち込み、好みに配置している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝、窓を開け換気を行なっている。冬季は、加湿器を使用し、乾燥を防いでいる。五感を働かせ、冷房、暖房を適宜使っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>車椅子が通りやすいように家具の配置を考え、お風呂場や脱衣所、廊下には手摺りを多く設置している。昇降便座や補高便座等の福祉用具も活用している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>自分の部屋がわかりやすいように写真入りのネームプレートを掛けたり、表示は大きな文字でするように工夫している。日めくりカレンダーや見やすい時計等の工夫をしている。</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダに鉢植えをおいて季節の花を楽しんでいる。施設周りには小さいが花壇があり、水遣り、草引き等花や野菜の世話を楽しんでいる。</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

駅から2分と立地条件が良く、家族も面会に訪れやすい。ショッピングセンターやデパート、スーパーも直ぐそばにあり、毎日散歩がてら気軽に買物に行くことが出来る。便利な所だが、緑も多く静かで住環境としても優れている。職員が買物や調理の追われることなく、ゆとりあるケアが出来るようにと考え、開設当初より食事は三食ともオリエンタルホテルに外注している。そのためゆっくりと散歩をしたり、買物をしたり、レクレーションを楽しんだりする時間を持つことが出来る。毎日の食事は、利用者の好みを聞きながら、オリエンタルホテルとも相談、協力しながら栄養豊かな食事が提供できるよう努めている。

経営者、施設長、管理者が医師、看護師であり、医療機関との連携、緊急時の対応も24時間態勢で確保している。その為、入居者、家族はもとより、介護職員にとっても安心して働くことが出来ている。施設長自ら、働きやすい環境、発言しやすい職場を目指している。職員採用には当ホームの合った人材確保に拘り、「職員の質は、日本一である」と自負している。職場の離職率は低い。